

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 (製品名) ScanTrue™ II Black - 71500010  
ScanTrue™ II Black  
供給者  
会社名 Weber Marking Systems GmbH  
住所 Maarweg 33  
53619 Rheinbreitbach  
電話番号 0049 (0) 2224 7708-0  
www.webermarking.de

緊急連絡電話番号 Infotrec United States 1-800-535-5053  
International 1-352-323-3500 (collect)  
SDS part number 900-0038-01

推奨用途及び使用上の制限  
推奨用途 インクジェット用インク。  
整理番号 24 Revision K

## 2. 危険有害性の要約

GHS 分類  
GHS分類基準に該当しない。

GHSラベル要素  
絵表示 なし。  
注意喚起語 なし。  
危険有害性情報 なし。

注意書き  
安全対策 産業衛生に気を配る。  
応急措置 取り扱った後、手を洗うこと。  
保管 避けるべき物質の近くに保管しない。  
廃棄 廃棄物および残渣の処理は地方自治体の規制に従う。  
その他の情報 該当しない。

### 重要な徴候及び想定される非常事態の概要

重要な徴候 眼、皮膚および気道刺激を起こすことがある。長期、または繰り返し皮膚に接触すると乾燥、ひび割れ、炎症を起こす可能性がある。長期にわたる暴露により慢性影響をうけることがある。  
非常事態の概要 長期にわたる暴露により慢性影響をうけることがある。

## 3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物

成分	CAS番号	官報公示整理番号		含有量 (%)
		化審法	安衛法	
カーボンブラック	1333-86-4	(5)-5222	(5)-5222	5 - 20
プロピレングリコールフェニルエーテル	770-35-4			< 10
報告量を下回るその他の成分				84
化学式	C (1333-86-4), C9H12O2 (770-35-4)			

## 4. 応急措置

吸入した場合 空気の新鮮な場所に移動する。空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
。症状が現れたり、残る場合は医師に連絡してください。  
皮膚に付着した場合 刺激が強まったり続く場合には医師の手当てを受ける。石鹸と水で洗う。  
眼に入った場合 水で完全に洗い流す。刺激が起こった場合は医師の手当てを受ける。  
飲み込んだ場合 口をすすぐこと。意識のない人には、絶対に、口から何も与えてはいけない。嘔吐させない。  
。気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。  
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状 眼、皮膚および気道刺激を起こすことがある。長期、または繰り返し皮膚に接触すると乾燥、ひび割れ、炎症を起こす可能性がある。長期にわたる暴露により慢性影響をうけることがある。  
。応急措置をする者の保護 医療スタッフに物質が何であるかを伝え、自身の保護措置にも気をつけさせる。  
医師に対する特別な注意事項 症状にあった治療を施す。

## 5. 火災時の措置

消火剤  
使ってはならない消火剤  
火災時の特有の危険有害性

水噴霧。泡消火薬剤。粉末消火剤。二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>)。  
消火に水噴射をしない。これは火災を拡散することになる。  
この製品は可燃性ではない。生成物は可燃性物質とは考えられていません。火災にまきこまれた場合は燃焼する。火災の際は健康に有害なガスが生成されることがある。炭素酸化物。窒素酸化物類  
危険でなければ、火災区域から容器を移動させる。水を噴霧して火に曝されている容器を冷却する。消火活動からの流去水が排水管または水路に入らないようにすること。  
火災の際は自給式呼吸器および全身保護衣を着用しなければならない。  
異常な火災や爆発の危険性は知られていない。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具  
及び緊急時措置

人体の保護具については第8項を参照。関係者以外の立ち入りを禁止する。こぼれやもれが起きている場所から関係者以外を遠ざけ、風上に避難させる。低いエリアに置いてはならない。適切な保護衣を着用せずに、壊れた容器または流出物に触らない。人体の保護具については第8項を参照。

環境に対する注意事項  
封じ込め及び浄化の方法及び機材

下水や水路、地面への排出を避ける。  
この製品は水に混和性である。  
大量の漏出：危険を伴わずに出来る場合には、物質の流れを止める。可能な場合は漏出した液体をせき止める。プラスチックのシートで覆い、拡散を防止しなければならない。パーミキュライト、乾いた砂または土に吸収し、容器に収納する。水を噴霧し、蒸気を減少させるか蒸気雲の流れの向きを変える。水路、下水道、地下または密閉された場所へ流入を防ぐ。製品回収後、その付近を水で洗い流す。  
少量の漏出：吸収材（例：布、フリース）で拭き取る。残った汚染を取り去るには、床を徹底的に清掃すること。  
絶対に流出物を元の容器に回収して再使用してはならない。廃棄物処理についてはMSDS第13項を参照。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い  
技術的対策（局所排気、全体換気等）  
安全取扱い注意事項  
接触回避  
適切な衛生対策

適切な全体換気・局所排気装置を設置する。適切な換気を行う。  
ミスト又は蒸気を吸入しないこと。眼、皮膚、衣服への接触を避ける。取扱い後はよく洗うこと。産業衛生に気を配る。SDSの項目8で推奨されている個人用保護具を使用すること。長時間の接触を避ける。  
強酸化剤。  
本物質を取り扱った後、飲食や喫煙をする前に手を洗うなど、常に適切な衛生措置をとる。汚染物質を取り除くために定期的に作業衣と保護具を洗う。

保管  
安全な保管条件  
安全な容器包装材料

元の容器に密閉して保管する。混蝕禁止物質（MSDSのセクション10を参照）から離して保管すること。子供の手の届かないように保管すること。元の容器に入れてフタを閉め、4℃から40℃の温度で保管する。涼しく乾いた場所に保存する。混蝕禁止物質から離して保管すること（セクション10を参照）。  
元の容器に保管する。

## 8. 暴露防止及び保護措置

暴露限界値  
日本産業衛生学会－許容濃度

成分	タイプ	数値	形状
カーボンブラック (CAS 1333-86-4)	TWA	4 mg/m <sup>3</sup>	総粉塵。
		1 mg/m <sup>3</sup>	吸入性粉塵。

ACGIH

成分	タイプ	数値	形状
カーボンブラック (CAS 1333-86-4)	TWA	3 mg/m <sup>3</sup>	吸引性画分

設備対策  
適切な全体換気（換気回数1時間に10回程度）を行わなければならない。換気回数は状況に合わせる。暴露限界値が設定されている場合は、密閉装置、局所排気装置その他の装置により、空气中濃度を暴露限界値以下に保つ。暴露限界値が設定されていない場合も、空气中の濃度を適切な濃度以下に抑える。

保護具  
呼吸器の保護具  
手の保護具  
目の保護具  
皮膚及び身体の保護具

通常の使用条件下では、普通は保護を必要としない。  
長時間または繰り返し皮膚に接触する場合は適切な防護手袋を使用する。  
接触の可能性がある場合、側面ガードつき安全メガネが望ましい。  
適切な保護衣を着用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

### 外観

物理的状态	液体。
形状	液体。
色	黒色。
臭い	データなし。
pH	9
融点・凝固点	< 20 ° C (< 68 ° F)
沸点, 初留点及び沸騰範囲	> 177 ° C (> 350.6 ° F)
引火点	> 104.0 ° C (> 219.2 ° F) 密閉式
燃焼性 (固体, ガス)	該当しない。
燃焼又は爆発限界の上限/下限	
燃焼又は爆発範囲-下限 (%)	データなし。
燃焼又は爆発範囲-上限 (%)	データなし。
爆発下限界 (%)	データなし。
爆発上限界 (%)	データなし。
蒸気圧	< 0.004 mm Hg at 20° C (68° F)
蒸気密度	データなし。
蒸発速度	<= 1 (N-ブチル酢酸 = 1)
比重	1
溶解度	
水溶性	水にわずかに溶ける
n-オクタノール/水分配係数	データなし。
自然発火温度 (発火点)	データなし。
分解温度	データなし。
粘度 (粘性率)	20 cP (25 ° C (77 ° F))
その他の情報	
爆発性状	爆発物でない。
酸化能力	酸化性でない。

## 10. 安定性及び反応性

反応性	本製品は、通常の使用、保管および輸送条件下では安定かつ非反応性である。
化学安定性	通常状態で安定。
危険有害反応可能性	一般的な使用条件下では、危険な反応は知られていない。
避けるべき条件	引火点を超える温度を避ける。 混触危険物質との接触。
混触危険物質	強酸。 強酸化剤。 強塩基類。
危険有害な分解生成物	炭素酸化物。 窒素酸化物。

## 11. 有害性情報

皮膚腐食性/刺激性	皮膚を刺激することがある。 長期、または繰り返し皮膚に接触すると乾燥、ひび割れ、炎症を起こす可能性がある。
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	目を刺激することがある。
呼吸器または皮膚の感作	
呼吸器感作性	入手可能なデータに基づき、分類基準にあてはまらない。
皮膚感作性	この製品は、皮膚感作を引き起こすとは思われない。
生殖細胞変異原性	本製品あるいは製品中に0.1%以上含有する成分に関して、変異原性または遺伝子毒性があることを示すデータはない。
発がん性	長期間暴露した場合は発がんのリスクも否定できない。 カーボンブラックの粉塵を吸入すると発がんのおそれがあるが、しかしながら製品の物理的形態により粉塵を吸入する可能性は低い。 カーボンブラックは、非吸着形態では動物発がん性が認められることもあるPAH (多環芳香族炭化水素) を、吸着した状態のPAHとして非常に低いパーセンテージで含んでいる。 このインクに使用されているカーボンブラックが含有する吸着状態のPAHの量は、0.1%未満である。 カーボンブラックはインク基材に結合しているため吸入性ではなく、したがってこの製品の通常的使用中に暴露するリスクはない。
ACGIH発がん性物質	
カーボンブラック (CAS 1333-86-4)	A3 動物に対して発がん性が確認された物質 (ヒトに対する発がん性との関連は未知)
IARC発がん性評価モノグラフ	
カーボンブラック (CAS 1333-86-4)	2B ヒトに対して発がん性がある可能性がある
日本産業衛生学会 - 発がん性物質	
カーボンブラック (CAS 1333-86-4)	2B ヒトに対して発がん性がある可能性がある
生殖毒性	入手可能なデータに基づき、分類基準にあてはまらない。
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	区分外。
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	区分外。

吸引性呼吸器有害性 入手可能なデータに基づき、分類基準にあてはまらない。

## 12. 環境影響情報

**生態毒性** この製品は環境に有害であるとは分類されていない。しかし、大量の流出や繰り返しの流出が環境に有害な影響を及ぼさないとは限らない。

**残留性/分解性** この製品の分解性についてのデータはない。

**生体蓄積性** データなし。

**土壤中の移動性** データなし。

**オゾン層への危険有害性** データなし。

**他の有害影響** その他の環境悪影響（例、オゾン層破壊、光化学オゾン生成可能性、内分泌かく乱、地球温暖化の可能性）は、これらの成分からは期待されません。

## 13. 廃棄上の注意

該当する全ての規制に従って廃棄する。

**残留性廃棄物** 現地の規定に従い、処分する。

**汚染容器及び包装** 現地の規定に従い、処分する。

**地域の廃棄規制** 廃棄物処理法の許可を受けた業者に処理を委託する。自社で排水処理装置を所有していない場合は、全量回収の上産業廃棄物処分業の許可を受けた業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を添えて、処理を委託する。

## 14. 輸送上の注意

**IATA**  
危険物には該当しない。

**IMDG**  
危険物には該当しない。

**MARPOL73/78条約の附属書II及びIBCコードによるバルク輸送** データなし。

**国内規制** 国内輸送については15章の規制に従うこと。

## 15. 適用法令

**労働安全衛生法**  
**通知対象物** カーボンブラック 5.0 - 10 %  
**表示対象物** 該当せず。

### 毒物及び劇物取締法

**特定毒物** 該当せず。

**毒物** 該当せず。

**劇物** 該当せず。

### 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律

**第一種特定化学物質** 該当せず。

**第二種特定化学物質** 該当せず。

**監視化学物質** 該当せず。

**優先評価化学物質** 該当せず。

### 化学物質排出把握管理促進法

**特定第一種指定化学物質(物質名、政令番号、含量)** 該当せず。

**第一種指定化学物質(物質名、政令番号、含量)** 該当せず。

**第二種指定化学物質(物質名、政令番号、含量)** 該当せず。

**船舶安全法・危規則** 該当せず。

**航空法・施行規則** 該当せず。

**火薬類取締法** 該当せず。

**海洋汚染防止法** プロピレングリコールフェニルエーテル Z類

## 16. その他の情報

### 引用文献

HSDB® - Hazardous Substances Data Bank  
IARC発がん性評価モノグラフ  
National Toxicology Program (NTP) Report on Carcinogens  
ACGIH Documentation of the Threshold Limit Values and Biological Exposure Indices  
日本産業衛生学会、許容濃度等の勧告  
JIS Z 7252:2009 GHSに基づく化学物質等の分類方法  
7252:2009 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場内の表示及び安全データシート (SDS)  
日本化学工業協会 GHS対応ガイドライン、2012年6月

この情報に関する保証はいたしかねます。この情報は正しいものであるとの信頼に基づき提供いたしております。この情報は、労働者と環境への保護対策を決定するためにのみ使用して下さい。この安全データシートは、日本工業規格JIS Z 7253:2012に沿って作成した。本データシートの情報は、現在入手できる最高の知識と経験に基づき記載されています。